

# 埋文 とやま

Toyama Prefectural Center for Archaeological Operations

2017.9.30

VOL

140



富山県指定有形文化財 直坂I遺跡出土品（富山市舟新・舟倉）  
(ナイフ形石器3点、彫刻刀形石器2点、錐形石器1点)

この石器は旧石器時代のもので、平成29年3月に富山県指定（考古資料）された直坂I遺跡出土品です。

用途に合わせて、いろいろな種類の石器を作っていたことを現在に伝える貴重な資料です。

とっておき埋文講座●は場整備事業の発掘調査一横越水庭遺跡、浜黒崎野田・平榎遺跡、平榎亀田遺跡の調査—

●わくわく古代チャレンジ2017

埋文あらかると●・博物館実習・14歳の挑戦

センター・フラッシュ●開所40年特別展 遺跡保護のあゆみ—富山県40年間の発掘調査で解き明かされてきた歴史の数々—  
行ってこられよ●県指定史跡「官崎城跡」

富山県埋蔵文化財センター

# ほ場整備事業の発掘調査

よこごし みずくぼ  
横越水窪遺跡、浜黒崎野田・平櫻遺跡、  
ひらさかのさ  
平櫻竜田遺跡の調査

## とっておき埋文講座①

### はじめに

あいの風とやま鉄道に乗り水橋駅から東富山駅へ向かうと、常願寺川を渡ってすぐ南側に広大な水田が広がる地域があります。ここに標題の遺跡があります。現在は、ほ場整備の工事が進められています。工事はなるべく遺跡が壊れないように計画されますが、新たに作られる水路部分など、どうしても避けられない箇所があります。そのような箇所では、工事前に発掘調査を行いました。

発掘調査は（公財）富山県文化振興財団が平成27年9月下旬から11月下旬、平成28年8月中旬から11月中旬まで実施しました。発掘調査は幅1~3mほどの狭い範囲でを行い、遺跡の全容を知ることはできませんが、多くの発見がありました。

今回発掘調査を行ったのは横越水窪遺跡、浜黒崎野田・平櫻遺跡、平櫻竜田遺跡の3遺跡です。

遺跡は富山県のほぼ中央を流れる常願寺川左岸の平野部で互いに隣接して位置します。周辺は神通川と常願寺川によって形成された複合扇状地末端の低地にあたります。標高は4~5m、北方1.2~1.5kmには富山湾が広がります。

### 横越水窪遺跡

遺跡は平成26年度に富山市教育委員会の試掘調査で新たに発見されました。発掘調査はあいの風とやま鉄道南側に隣接する箇所で行いまし



横越水窪遺跡

た。遺構は多くの溝・土坑がみつかりました。溝は遺物量が少ないため生活に関わる溝とは考えられにくく、水田の水路と考えます。現在の水路は南北方向にまっすぐ延びていますが、見つかった水路は斜め方向や湾曲しています。旧地形を利用した水路です。土坑は多く見つかりましたが、なかには深さ1m近いものがありました。埋まっている土を掘ると、どんどん水が湧き、作業中はポンプを入れていましたが、止めるとすぐに満水になりました。これらは井戸として利用されました。



井戸

遺物は縄文時代から江戸時代までのさまざまな年代のものがみつかり

ました。縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、中世土師器、珠洲、越中瀬戸、肥前陶磁、木製品、石製品（打製石斧、磨製石斧、砥石、緑色凝灰岩剥片）、金属製品（銅錢）があります。なかでも鎌倉時代から江戸時代のものが多く、遺構の年代もこの頃が中心となります。

### 浜黒崎野田・平櫻遺跡

遺跡は、かつては野田遺跡、平櫻遺跡、平櫻城推定地と称され、古くから知られていました。富山県の考古学史の先駆者として知られる早川莊作氏は、大正15年に刊行した「越中石器時代民族遺跡遺物」の中で、浜黒崎村平櫻遺跡で土器や石器を発見したこと記しています。

発掘調査はあいの風とやま鉄道南側で、遺跡を南北に貫く市道宮条平櫻線の東側で行いました。遺構は溝・土坑がみつかりました。溝は遺物量が少ないため、水田の水路と考ええます。土坑の機能は不明です。

遺物は縄文土器、弥生土器、青白磁、石製品（砥石、ヒスイ剥片、緑色凝灰岩剥片）などがあります。遺物の年代は古いものがありますが、遺構は横越水窪遺跡と同様に、鎌倉時代から江戸時代が中心となります。

今回は市道宮条平櫻線の東側で発掘調査を行いましたが、この市道西側では平成7年度に富山市教育委員会により発掘調査が行われました。その際も遺跡の一部で調査が行われたため全容はわかりませんが、報告

書によると、遺物の出土状況や遺構から、遺跡北部は縄文時代後期～晩期の土器捨て場、遺跡中央部付近～南部は弥生時代中期～古墳時代前期の集落跡、遺跡中央部～東部は平安時代と中世（鎌倉時代～江戸時代）の集落跡と推定されています。集落の中心はこの市道西側で、今回の調査地は遺跡の縁辺と考えます。ヒスイや緑色凝灰岩の剥片がみつかっていることから、弥生時代の集落の中心では勾玉や管玉などの玉作りが行われていた可能性があります。

### 平櫻龜田遺跡

遺跡は横越水窪遺跡の南側で、浜黒崎野田・平櫻遺跡の東側に位置します。約252,500m<sup>2</sup>にわたる広い箇所が遺跡範囲です。



柱列

発掘調査は遺跡範囲全体に点在して行いました。人々の暮らしの痕跡は、現在の集落の東側や南側で、掘立柱建物を構成すると考えられる柱穴列や竪穴建物がみつかっています。そのほかの箇所では水田の水路と考えられる溝がみつかっています。土坑のうちよく湧水するものは、井戸と考えます。



遺跡遠景

遺物は縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、株洲、瀬戸美濃、中国製青磁、越中瀬戸、伊万里、唐津、土製品（土人形、羽口、土錘）、木製品（漆器梶・皿、箸、下駄）、石製品（打製石斧、緑色凝灰岩剥片、鉄石英剥片、硯、砥石、五輪塔）、金属製品（和鏡、煙管、銅錢、鉄滓）があります。

遺跡では平安時代ごろから人々が生活を営み始めたことがわかりました。それ以降では確認できませんでしたが、より暮らしやすい場所を求めて今日の集落と同様な立地で暮らしていたのでしょう。

現在の集落の東側ではV字状に掘られた薬研堀がみつかりました。遺跡がある平櫻地内には上杉謙信により攻め落とされたと伝えられる平櫻城があったとされており、地区内の住吉社は城中の鎮守として祭ってきたと伝えられます。今回の調査でみ

つかった堀はこれに関連する可能性が高いです。



堀の断面

### おわりに

発掘調査により、少しづつではありますが、地域の人々の過去の暮らしを見えてきました。このような調査成果の蓄積が地域の歴史の解明につながります。平成29年度も調査は計画されており、さらなる成果が期待されます。

（高柳 由紀子）

# わくわく古代チャレンジ2017

## とっておき埋文講座②

### はじめに

当センターでは、毎年夏休みの期間に合わせて「わくわく古代チャレンジ」を実施しています。

埋蔵文化財に関する体験活動をとおして、古代に生きた先人のくらしや知恵にふれ、考古学や埋蔵文化財への関心を高めたり、夏休みの自由研究のサポートを行ったりしています。

以下、今年度の取組について紹介します。

### ふるさと考古学教室

7月26日（水）～8月10日（木）の12日間に全7教室、21コースで行いました。内容は「刀鍛冶を体験しよう（ペーパーナイフづくり）」「縄文の文様で飾ろう（縄文小物入れ・縄文ブレートづくり）」「古代アジロ・アンギン編みを体験しよう（コースター・タペストリーづくり）」「古代の鏡の鋳造を体験しよう（鏡鏡づくり）」「大型まが玉づくりを体験しよう（滑石大型ま



が玉づくり）」「ガラスの装飾品を作ろう（ガラス玉づくり）」「藍染を体験しよう（藍染エコバッグづくり）」です。

今年度は、各教室の募集合計定員310組に対し、のべ850組の応募があり、ここ数年で最大の応募数であった昨年応募数600組を大幅に上回りました。特に新規メニューの「刀鍛冶を体験しよう」のコースは4回の募集合計40組に対して245組の応募があり、平均で6倍を超える倍率となりました。最大応募数は毎年人気の「ガラスの装飾品を作ろう」のコースで初日の15組の募集に対して73組の応募がありました。

特に今年度は、春の企画展「古代へのとびら2017～いにしえの「技

と知恵」～」との関連を深め、展示で学習したことを探し体験できるようにも工夫しました。

では、新規メニューの「刀鍛冶を体験しよう」について紹介します。日本では弥生時代に稻作の伝来と同じころに大陸から鉄器がもたらされたと考えられています。富山県での最古の鉄器は射水市囲山遺跡から出土した弥生時代後期の短剣です。これらのことを企画展の展示を見て学習した後、いよいよ体験に入ります。

「鍛冶」とは鉄の地金を鍛錬して、製品を製造することです。そして「鍛錬」とは金属を打って鍛えることです。この体験では、鉄釘を七輪の炭火の中に入れ、赤くなるまで熱した後、ハンマーで打ち付け、刃になる部分を薄くなるように叩き延ばしていきます。



炭火で熱された鉄はおよそ800度です。大人が炭火から鉄釘を取り出し、金床の上で子供がハンマーで打ち付けます。この赤みがある間に親子で息を合わせて叩き延ばしていく



なければいけません。互いの息が合わないと、鉄釘がすぐに冷めてしまったり、延ばしたい場所にハンマーを打ち付けることができなかつたりします。最初はなかなか難しいですが、そこは教室のキャッチフレーズの「親子で挑戦！！」です。



出来上がったものは水に入れて「焼き入れ」し、砥石で研いで刃にします。この「研ぐ」という活動も初めての体験の子供が多く、なかなか苦労している姿が見られました。



新聞紙で試し切りをした後は、柄の部分に様々な模様のテープで装飾して完成です。刃の部分は厚紙で作った鞘に納めて持ち帰りです。刃の部分は鋭くなっているので、扱いには十分注意してペーパーナイフとして使用してくださいね。



### こども考古学クラブ

今年度のこども考古学クラブは「目指せ未来の考古学者！！」のキャッチフレーズのもと、小学校6年生限定で募集しました。より歴史について学習したいという意欲をもつ



た児童11名が参加し、8月16・17・19日の3日間昼食持参で午前午後を通して歴史についての学習、学習したことに関連する体験を行いました。

こども考古学クラブでは、学校で学んでいる社会科の歴史学習をもとに、富山県の遺跡や出土品と関連させたセンターオリジナルのクイズ「考古学クラブ検定」を中心に進めました。出題されたクイズに対して答える際は、子供自身が学校で学んだことや、本を読んで知り得た知識を駆使して、真剣に考えて理由を述べている姿が多く見られました。

また、展示室や普段入ることのできない収蔵庫等を見学し、展示や遺物についての説明をノートにメモしたり、写真に撮ったりしました。

中身の濃い充実した3日間になりました。



### わくわく考古体験コーナー

当センター会議室とロビー、テラスを利用して考古体験コーナーを設

置しました。内容は「まが玉づくり」「組ひもづくり」「アジロ編み」「アンギン編み」と、「くるみ割り体験」「火起こし体験」「ヒスピ穴あけ体験」「土器パズル」「古代すごろく」「古代衣装体験」と新規メニューの「中将棋」「まいぶんライブラリー」です。夏休み中は多くの方が体験されていました。



### 終わりに

「夏休みの自由研究にもってこいです。参加してよかったです！」「子供の口から『楽しい♪』と聞きました。大変よかったです」「親も子も勉強になりました」「来年も是非参加したいです」

アンケートには多くの意見が寄せられました。参加されたほとんどの方が大いに満足したと回答されました。今後も歴史や考古学に興味をもてるような体験や講座を企画運営していきたいと考えています。

(橘 泰弘)

# 埋文 あらかると

博物館実習は、学芸員資格取得を希望する学生に対して行う実地研修です。博物館に関する人材育成及び博物館活動の普及を行うことを目的にしています。

毎年、当センターでは、地元の大学を中心に学芸員資格の取得をめざす学生を博物館実習生として、受け



## 博物館実習

入れています。今年度の博物館実習では9名の実習生を受入れました。期間は7月27日(木)から8月8日(火)までの8日間で実施しました。

当センターでは、体験教室の運営補助と課題作成がカリキュラムのメインとなっています。体験教室はふるさと考古学教室と連携し、特にガラス玉づくりの講師を実習生たちに担当していただいています。その内容は作成の手順、注意事項など多岐にわたります。

課題作成は、その年度により作成物は異なりますが、本年度は県指定有形文化財の収納箱の作成を行いました。石器の天地・表裏などあまり触ることのない旧石器の資料を手



に取りながら、ウレタンマットを石器の複雑な形状に合わせカットしました。作成したケースは今後センターでの資料の収納ケースとして使う予定です。

なお、来年度は1月に実施要項をホームページ上で公開する予定です。

(高橋 真実)

## 14歳の挑戦

富山県では、平成11年度から、行動領域が広がり活動的になる中学生2年生が、1週間、学校外で職場体験活動や福祉・ボランティア活動等に参加することにより、規範意識や社会性を高め、将来の自分の生き方を考えるなど、成長期の課題を乗り越えるたくましい力を身につけることができるよう、「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」を行っています。今年度は富山市内の中学校から6名の生徒を受入れました。

館内・館外清掃、体験道具のメンテナンスや、出土品の解説学習などを行いました。ガラス拭きの様子を

見ていると、初めの時には機械的に拭いているだけでしたが、「お客さんの立場にたってガラスを拭いてみよう」というアドバイスにどこによく手の跡が付くかなど考えてガラス拭くようにしていました。

最終日には、他の施設で職場体験をしている中学生に展示解説と火起こし体験の指導を行いました。最終日の展示解説に向けて職員の展示解説を基に、自分の伝えたい内容を加えて自分なりの解説を考えました。わかりやすく伝えるために、休憩時間を使って自分たちで解説の練習も



していました。本番の展示解説は練習の成果を発揮し、自信をもって堂々と行っていました。

後日届いた礼状には、職場体験を通して、自分の役割に責任をもって働くことの大変さや、人のためになることの喜びを学ぶことができたと書いてあり、短い期間であっても子供たちにとって意味のあるものになったことをうれしく思いました。

(米田 大介)

# Center Flash

## 開所40年記念特別展 遺跡保護のあゆみ

—富山県40年間の発掘調査で解き明かされてきた歴史の数々—

平成29年10月6日(金)～平成30年3月22日(木)



平成29年10月6日(金)～平成30年3月22日(木)

開催／9:00～17:00 休館日／全曜日、年末年始（12/27～1/4）

富山県埋蔵文化財センター

入館無料

### 記念講演

平成29年11月12日(日) 午後1時30分から

#### とやまの歴史を語る —センターの発掘調査から—

- 講師 当センター前所長 山本正敏氏
- 会場 当センター会議室

平成30年2月4日(日) 午後1時30分から

#### とやまの考古学を 築いた先覚者たち

- 講師 敬和学園大学人文社会科学研究科客員研究員 藤田富士夫氏
- 会場 当センター会議室

# 行ってこられよー《70》

今度の休日、ちょっと出かけてみませんか。



## 県指定史跡「宮崎城跡」 朝日町城山地内

宮崎城跡は、富山・新潟の県境近くにある標高249mの城山山頂に位置しています。城跡からは、遠望がきき、東は親不知、西は新川平野、北は能登半島を望みます。このため、古くから軍事上の要所となっていました。文献によれば、平安時代末の治承4年（1180）、源義仲によって築城され、この土地の豪族、宮崎太郎と共に後白河天皇の孫の北陸宮を奉じたと伝わります。その後は宮崎氏歴代の居城となりました。戦国時代以降は上杉、佐々、前田氏がそれぞれの家臣に城を守らせています。位置、地形、地勢が軍事的に適していることで、明治時代には、陸軍用地となっていました。



■鉄道  
あいの風とやま鉄道越中宮崎駅から徒歩1時間  
■自家用車  
北陸自動車道 朝日ICから25分



### 編集後記

センターでは、10月6日から始まる特別展の準備を行っています。開所以来40年の発掘調査やその成果を紹介します。ぜひ、センターへ足をお運びください。お待ちしております。（担当 米田）

### 富山県埋蔵文化財センターニュース「埋文とやま」vol.140

平成29年9月30日発行 編集／富山県埋蔵文化財センター T930-0115 富山市茶屋町205-3 TEL076-434-2814  
URL <http://www.pref.toyama.jp/branches/3041/maibun/>



▲富山県

リサイクル情報

この回路図は、ごみ箱のへりをひきなれます。